

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期見通し

2016年8月3日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

(スライド1)

- オリンパスの竹内です。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2017年3月期第1四半期決算（発表）説明会」にお集まりいただき誠に有難うございます。
- それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

第1四半期実績

- 連結：円高の影響を主要因に減収減益
- 医療：為替影響を除いた現地通貨ベースでは堅調な推移

通期業績見通し

- 連結：為替前提の変更、熊本地震による影響を織り込み、業績見通しを修正
- 医療：需要動向に変化は無く、為替影響を除いた現地通貨ベースの期初見通しを達成できる見通し

(スライド2)

- スライドの2ページをご覧ください。
- この第1四半期の実績は、円高の進行など、想定以上の外部環境変化を受け、前年同期比で大幅な減収減益となりました。
- 当社は、これまでもシングルユースデバイスなどで、海外生産比率を高めてきていますが、依然為替変動の影響を受けやすい事業経営体質で、中期計画初年度として、改めて為替対応の重要性を認識しております。
- ただし、主力の医療事業については、為替の影響を除いた現地通貨ベースで増収増益基調を継続しており、事業そのものは堅調に推移しております。
- 通期業績見通しにつきましては、まず、直近の為替動向を背景とし、見通しの為替前提を円高方向に見直しました。さらに、熊本地震による映像事業への影響等を織り込み、数値を修正しております。
- 医療事業については、為替を見直した影響は受けるものの、需要は引き続き底堅く、実態としては期初見通しを据え置いております。

2017年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

(スライド3)

- それでは第1四半期の連結業績と事業概況について、詳しくご説明申し上げます。

2017年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況（前年同期比）

① 円高影響（売上高:173億円/営業利益:37億円）等により、売上高は10%減収、営業利益は37%減益

(単位：億円)	1Q累計（4-6月）		増減額	前年同期比	為替影響調整後
	2016年3月期	2017年3月期			
売上高	1,876	1,684	▲191	▲10%	▲1%
売上総利益 (売上総利益率)	1,217 (64.9%)	1,120 (66.5%)	▲97 (+1.6pt)	▲8%	-
営業利益 (営業利益率)	172 (9.2%)	108 (6.4%)	▲64 (▲2.8pt)	▲37%	▲16%
経常利益 (経常利益率)	167 (8.9%)	83 (4.9%)	▲84 (▲4.0pt)	▲50%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	167 (8.9%)	85 (5.1%)	▲82 (▲3.8pt)	▲49%	
円/USD	121円	108円	▲13円 (円高)		
円/Euro	134円	122円	▲12円 (円高)		
影響額：売上高	-	▲173億円			
影響額：営業利益	-	▲37億円			

2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

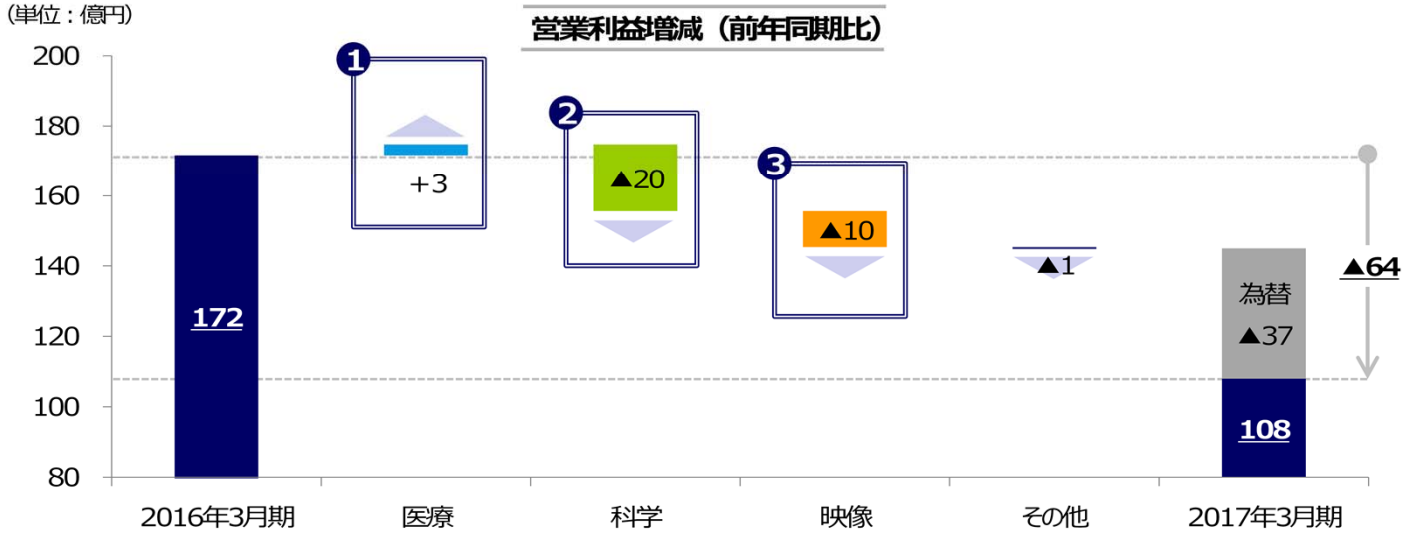
(※) 親会社株主に帰属する当期純利益 4

(スライド4)

- スライドの4ページをご覧ください。
- こちらは第1四半期の連結実績です。
- 売上高は前年同期比10%減の1,684億円、営業利益は37%減の108億円、経常利益は50%減の83億円、当期純利益は49%減の85億円となりました。
- USDで13円、ユーロで12円といずれも大幅な円高となったことが、この第1四半期の業績に大きく影響しています。
- 次のスライドで、営業利益の増減について補足させていただきます。

2017年3月期 第1四半期実績 ②営業利益増減要因 (前年同期比)

- 為替影響を除く現地通貨ベースでは ①医療事業：実質増益を確保
- ②科学事業：資源安や研究予算停帯の影響による売上減少を受け、減益
- ③映像事業：売上減少により、減益



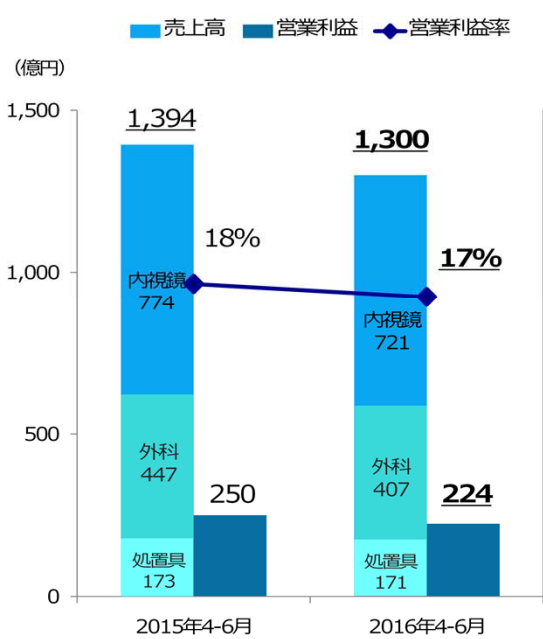
2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

5

(スライド 5)

- スライドの 5 ページをご覧ください。
- こちらは営業利益の増減をセグメント別に見たものです。
- 連結全体で64億円の減益となっておりますが、そのうち約6割が円高の影響によるものです。
- セグメントでは、医療事業は実質的に増益を確保しているものの、科学事業と映像事業が減益という結果でした。
- 事業別の状況について、次のスライドから詳しくご説明します。

2017年3月期 第1四半期実績 ③医療事業



(単位: 億円)	実績数値		為替影響	成長率	
	2015年4-6月	2016年4-6月		円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,394	1,300	▲135	▲7%	+3%
内視鏡	774	721	▲76	▲7%	+3%
外科	447	407	▲45	▲9%	+1%
処置具	173	171	▲14	▲1%	+7%
営業利益	250	224	▲29	▲10%	+1%
営業利益率	18%	17%	-	▲1pt	-

■ 為替影響により減収減益も、現地通貨ベースでは前年並みを確保

- **内視鏡** : 拡大内視鏡販売 (日本)、EXERA III (欧州) の販売が堅調に推移
- **外科** : サンダービートなど、エネルギーデバイスの販売が好調に推移し、前年並みの売上を確保
- **処置具** : 販売体制強化の効果に加え、競争力のある製品群 (ESD、ERCP、止血等) の拡販により、好調に推移

2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

(※) ESD: 内視鏡的結膜下層剥離術、ERCP: 内視鏡的逆行性胆管造影

6

(スライド6)

- スライドの6ページをご覧ください。
- まず始めは主力の医療事業です。
- 第1四半期の実績は、売上高は前年同期比7%減の1,300億円、営業利益は10%減の224億円、営業利益率は1ポイント減の17%となりました。
- 円高の影響を受けたことにより、減収減益となりましたが、為替の影響を除く現地通貨ベースでは、内視鏡、外科、処置具の各分野で増収、営業利益も増益基調をキープしています。
- 内視鏡分野では、日本では、拡大内視鏡の販売増、欧州ではエクセラIIIの販売が堅調に推移したことなどにより、現地通貨ベースで3%増収となりました。
- 外科分野は、サンダービートなどエネルギーデバイスの販売が好調に推移し、現地通貨ベースで1%の増収を確保しています。
- 処置具分野は、欧米を中心に販売体制を強化してきた効果が継続していることに加え、ESDで使用されるITナイフや止血用クリップなど、競争力のある製品群の販売が好調に推移し、現地通貨ベースで7%の増収となりました。
- このように実態ベースでは増収増益基調を継続しておりますが、一方でこれは期初の想定に対しては、若干の進捗未達という結果です。
- 次のスライドでこの点を補足致します。

2017年3月期 第1四半期実績 ③医療事業（現地通貨ベース成長率）

- 日本：シングルユースデバイス（処置具、エネルギーデバイス）が好調に推移し、概ね期初見通しに沿った成長
- ▲ 北米：消化器内視鏡分野における商談の長期化が主要因となり、期初見通しを下回る成長
- 欧州：全分野で堅調（シングルユースデバイス（併せて好調））に推移し、期初見通しに沿った成長
- アジア・オセアニア：消化器内視鏡・外科分野が大変好調に推移し、期初見通しを上回る成長

地域別	FY2015				FY2016				FY2017
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
日本	3%	6%	▲11%	2%	▲3%	6%	4%	5%	3%
北米	10%	▲3%	12%	14%	5%	9%	4%	3%	▲4%
欧州	12%	10%	5%	1%	8%	11%	6%	5%	5%
アジア・オセアニア	6%	26%	30%	13%	20%	8%	4%	11%	23%
連結	8%	7%	7%	7%	7%	9%	4%	5%	3%

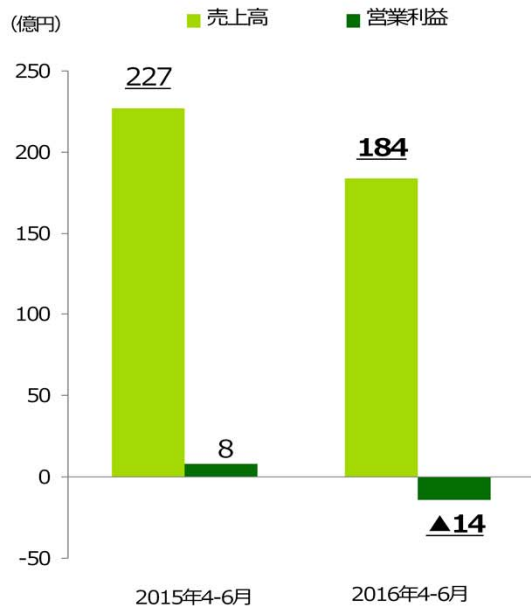
2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

7

（スライド7）

- スライドの7ページをご覧ください。
- こちらは医療事業の地域別成長率をクォーターごとに表にしたものです。
- 第1四半期で厳しい結果となったのは北米のマイナス4%という実績です。
- また、日本はプラス3%増収、欧州でプラス5%増収となりました。
- 特に、エネルギーデバイスのサンダービートが日欧両地域で好調だったほか、処置具分野では、日本で痔胆領域、E S D関連製品、欧州では止血分野のQuick Clip Proなど、いずれもシングルユースデバイスが好調な販売となり、想定に沿った進捗となりました。
- 加えて、アジア・オセアニアは消化器内視鏡、外科内視鏡が好調な中国を中心にプラス23%増収と想定を上回る滑り出しとなりました。
- なお、北米のマイナス成長ですが、消化器内視鏡、外科内視鏡などのキャピタル製品の商談が、若干長期化している影響で、販売が第2四半期以降にずれ込んでいることが背景にあります。
- 通期の見込みについては、後ほど年間見通しの説明の中でふれさせていただきます。

2017年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



(単位: 億円)	実績数値		為替影響	成長率	
	2015年4-6月	2016年4-6月		円ベース	現地通貨ベース
売上高	227	184	▲20	▲19%	▲10%
営業利益	8	▲14	▲2	-	-
営業利益率	3%	-	-	-	-

- 先進国を中心とした研究予算の抑制や資源安による資源関連投資の低迷、円高の影響等の外部環境要因
- システム移行に伴う出荷遅れ、一部製品の品質問題による販売の遅れ等の当社固有の要因

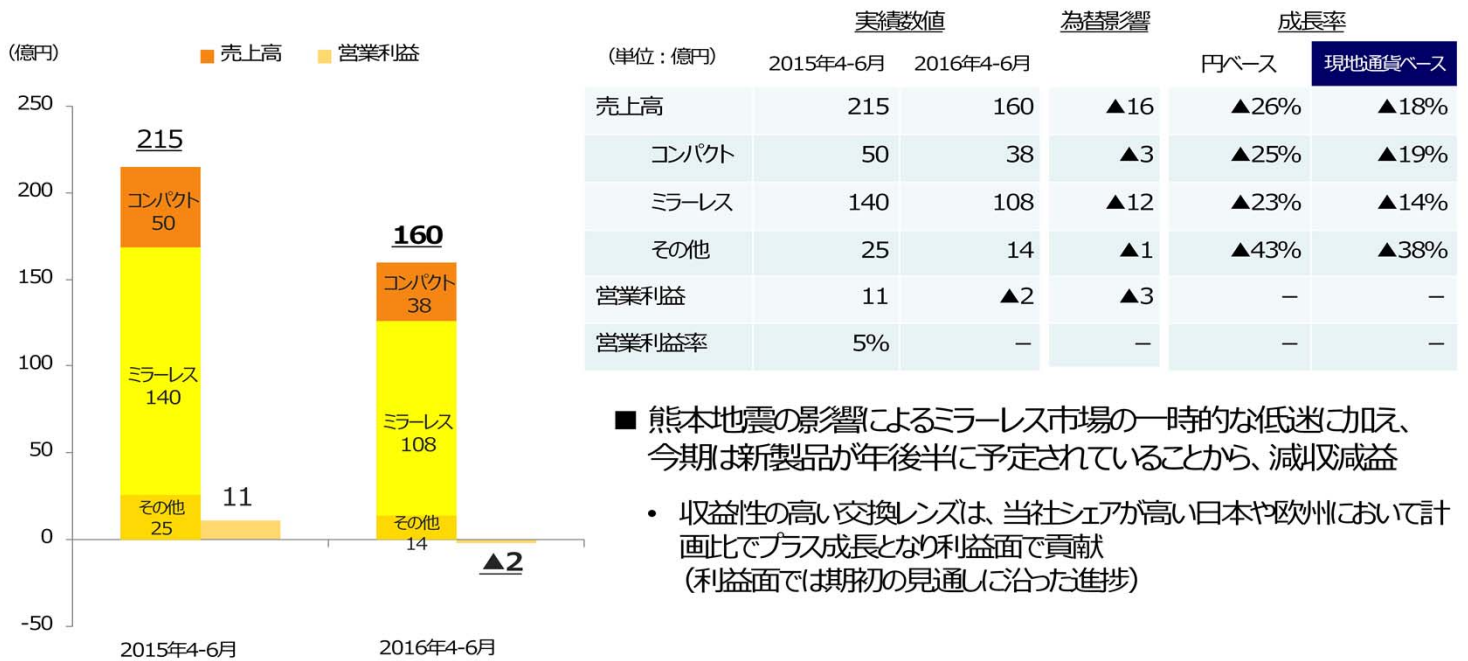
2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

8

(スライド8)

- スライドの8ページをご覧ください。
- 科学事業です。
- 第1四半期の売上高は前年同期比19%減の184億円、営業損益は22億円悪化し、14億円の損失となり、大変厳しい結果となりました。
- 大幅な減収減益となった背景ですが、
- 研究予算の抑制や資源関連投資の低迷、円高の影響など、想定を上回る外部環境変化の要因に加えて、
- 業務システム移行に伴う出荷の遅れ、一部製品の品質問題による販売の遅れといった社内の要因が影響しています。
- なお、今後につきましては、業務システム移行や新製品販売遅れといったマイナス要因は既に解消しており、16CSP（中期経営計画）で策定した顧客群別戦略に沿って、新規顧客の開拓や営業効率の向上を着実に進めることで売上を拡大し、収益の改善を図る見込みです。

2017年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業



2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

9

(スライド9)

- スライドの9ページをご覧ください。
- 映像事業です。
- 第1四半期の売上高は前年同期比26%減の160億円、営業損益は13億円悪化し2億円の損失となりました。
- 前年同期は第1四半期にミラーレスの新製品効果があった一方で、今年度は新製品投入が秋のフォトキナ以降で予定されていること、
- 加えて、熊本地震の影響で、この第1四半期にミラーレス市場が、一時的に低迷したことが影響しています。
- なお、減収減益ではありますが、収益性が高い交換レンズの売上等は堅調に推移しており、期初の見通しとの比較では、ほぼ想定に沿った水準でした。

連結貸借対照表 (2016年6月末)

- ① デジカメ在庫は12億円減の132億円
- ② 円高により、自己資本比率は36.9%

(単位：億円)	2016年 3月末	2016年 6月末	増減額		2016年 3月末	2016年 6月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,207 (144)	4,982 (132)	▲225 (▲12)	流動負債	2,666	2,567	▲99
有形固定資産	1,661	1,585	▲76	固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	3,392 (2,583)	▲105 (▲61)
無形固定資産	1,508	1,343	▲165	純資産	3,843	3,514	▲329
投資その他資産	1,631	1,563	▲68	(自己資本比率)	(38.2%)	(36.9%)	(▲1.3pt)
資産合計	10,006	9,473	▲533	負債 純資産 合計	10,006	9,473	▲533

有利子負債：3,213億円 (2016年3月末比 +2億円)

純有利子負債：1,517億円 (2016年3月末比 ▲29億円)

(スライド10)

- スライドの10ページをご覧ください。
- バランスシートの状況です。
- まず、在庫の状況です。
- デジタルカメラの在庫は、現行製品の販売が進んだこと等により、2016年3月末から12億円減少し、132億円となりました。
- 在庫回転月数も約2.7ヵ月となっており、適正な水準を維持しております。
- 自己資本比率は2016年3月末比で1.3ポイント減少の36.9%となりました。当期純利益を約85億円計上したものの、円高の影響により為替換算調整勘定が約380億円悪化したことが主な要因です。

連結キャッシュフロー計算書 (2016年4月～6月)

(単位：億円)	2016年3月期1Q	2017年3月期1Q	増減
売上高	1,876	1,684	▲191
営業利益	172	108	▲64
(営業利益率)	9.2%	6.4%	▲2.8pt
営業CF	305	265	▲40
投資CF	▲104	▲129	▲24
財務CF	▲92	▲1	+91
キャッシュフロー	109	135	+26
フリーキャッシュフロー	201	136	▲65
現金及び現金同等物期末残高	2,241	1,694	▲548
減価償却費	96	109	+14
のれん償却額	25	22	▲3
設備投資額	162	177	+14

2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

11

(スライド11)

- スライドの11ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 医療事業を中心に営業活動からキャッシュフローが創出されており、営業キャッシュフローは265億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、主力の医療事業や本社の開発拠点の設備投資等で、123億円支出したことにより、129億円のマイナスとなりました。
- 以上によりフリーキャッシュフローは、136億円のプラスとなりました。

2017年3月期 通期業績見通し

(スライド12)

- それでは、通期業績見通しについてご説明申し上げます。

事業環境認識

期初における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- 円高トレンドの進行

現時点における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- **Brexit**による一段の円高
- **資源安の長期化**
- **熊本地震**

- より一段の円高 / 資源安の継続 / 熊本地震の影響
- 医療事業の中長期的な需要動向は不変

(スライド13)

- スライドの13ページをご覧ください。
- まずは、第1四半期以降の事業環境です。
- 期初の時点から変化しております。
- Brexitによる、一段の円高進行に加え、資源安の長期化や熊本地震など、これらが当社事業に与える影響は避けられないと想定しています。
- 一方で、主力の医療事業については、足元での円高による業績影響はございますが、中長期的な需要動向に大きな変化はないと見ています。

2017年3月期 通期業績見通し

- ① 為替前提の変更および熊本地震の影響等を織り込み、通期業績見通しを修正
- ② 当期純利益は570億円と過去最高の前期に次ぐ高水準を確保できる見通し

(単位：億円)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (前回見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	前期比	為替影響調整後
売上高	8,046	8,000	7,750	▲250	▲4%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	5,352 (66.5%)	5,310 (66.4%)	5,138 (66.3%)	▲172 (▲0.1pt)	▲4%	-
営業利益 (営業利益率)	1,045 (13.0%)	900 (11.3%)	770 (9.9%)	▲130 (▲1.4pt)	▲26%	+2%
経常利益 (経常利益率)	909 (11.3%)	800 (10.0%)	670 (8.6%)	▲130 (▲1.4pt)	▲26%	
当期純利益 (当期純利益率)	626 (7.8%)	650 (8.1%)	570 (7.4%)	▲80 (▲0.7pt)	▲9%	
EPS (円)	183	190	167	▲23	▲9%	
円/USドル	120円	108円	106円	▲2円 (円高)	▲14円 (円高)	
円/Euro	133円	120円	117円	▲3円 (円高)	▲16円 (円高)	

2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

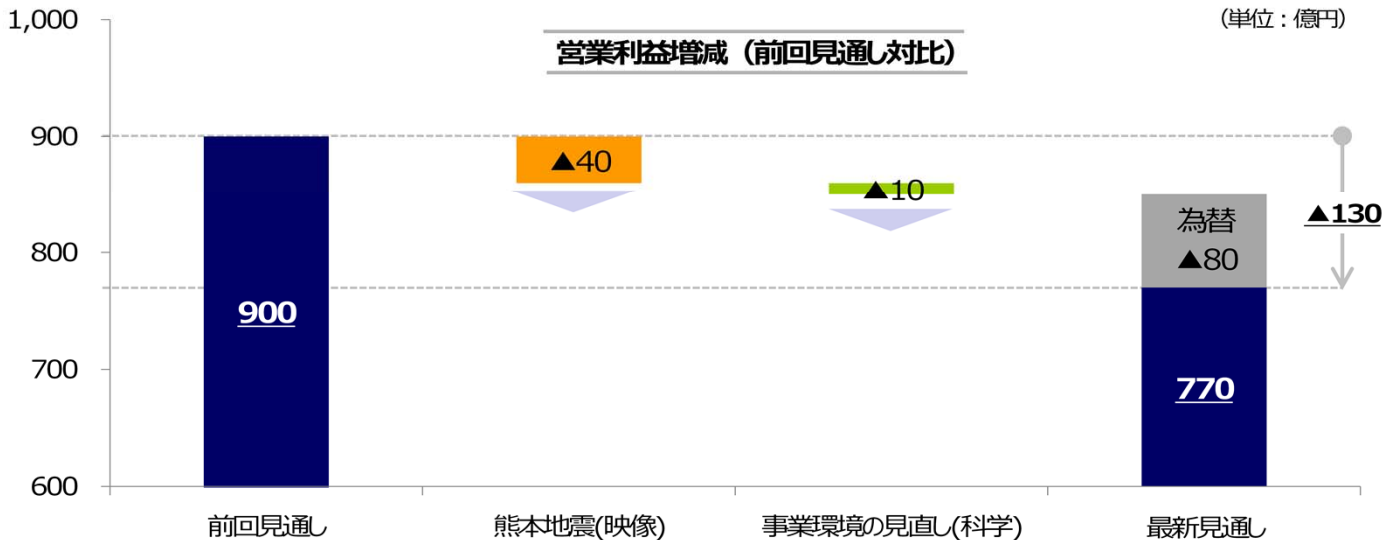
14

(スライド14)

- スライドの14ページをご覧ください。
- こうした事業環境を踏まえ、2017年3月期の通期業績見通しを修正しました。
- 前提となる為替レートは第2四半期以降を1ドル105円、1ユーロ115円とし、年間では1ドル106円、1ユーロ117円と、円高方向に変更しております。
- 売上高は前期比4%減の7,750億円、営業利益は前期比26%減の770億円、経常利益も前期比26%減の670億円となる見通しです。
- 当期純利益については有利子負債削減等による営業外損益の改善効果もあり、過去最高の前期に次ぐ高水準の570億円を確保できる見通しです。
- 尚、配当につきましては、期初の配当予想を据え置き、2017年3月期、期末配当として、引き続き28円を予定しております。

2017年3月期 通期業績見通し 営業利益増減要因（前回見通し対比）

- 為替変動（円高）の影響を反映
- 映像事業／科学事業は、熊本地震、事業環境の見直しを織り込む
- 医療事業の年間ベースでの需要・引き合いは厚く、現地通貨ベースでは期初見通しを達成できる見込み



2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

15

(スライド15)

- スライドの15ページをご覧ください。
- 営業利益の増減について補足させていただきます。
- 期初の見通しから130億円修正しました。このうち約80億円は為替前提変更の影響によるものです。
- そのほか事業別では、映像事業の熊本地震による影響を約40億円、科学事業の状況を受け約10億円、修正しております。
- 一方、医療事業については引き続き需要・引き合いは厚く、為替影響を除いた現地通貨ベースでは期初の見通しを達成できる見込みです。

2017年3月期 医療事業：通期見通し

日本

- 堅調な実績となった第1四半期に引き続き、好調なシングルユースデバイス（エネルギーデバイス・処置具）の拡販に加え、拡大内視鏡（日本）を始めとした消化器内視鏡の更新を進め、現地通貨ベースで期初目標を達成する見込み

欧州

アジア・オセアニア

- 新興国経済の不透明さはあるものの、通期目標に対して引き合いは十分にあり、現地通貨ベースで期初目標を達成する見込み

北米

- 第1四半期はマイナス成長となったが、通期目標に対して引き合いは十分にあり、現地通貨ベースで期初目標を達成する見込み
 - ・ 消化器内視鏡：通期目標に対して引き合いは十分にあり、第2四半期以降、販促活動の強化等によって着実に実績へと結びつける
 - ・ 外科：3D、4K内視鏡の豊富な引き合いを着実に実績へと結びつける
 - ・ 処置具：好調な実績の第1四半期に続き、差別化製品による訴求、内視鏡セット販売により拡販

2016/8/3 No data copy / No data transfer permitted

16

(スライド16)

- スライドの16ページをご覧ください。
- 医療事業の通期見通しについてもう少し詳しくご説明します。
- 国内・欧州市場は第2四半期以降も好調なシングルユースデバイスの拡販や消化器内視鏡の更新を進めていきます。
- アジア・オセアニアについては、新興国経済の不透明さはあるものの、引き合いは十分にあり、引き続き期初の目標を達成できると見ております。
- 北米については、主力の消化器内視鏡と外科内視鏡でキャピタル製品の商談に長期化の傾向が見られ、第1四半期はマイナス成長となりました。
- いずれの製品も、商談が長期化していること等が主な要因です。
- 通期業績については、年間ベースでの引き合いは十分に確保していることに加え、消化器内視鏡においては販促活動の強化、外科内視鏡では、3D・4K内視鏡の豊富な引き合いを着実に実績へと結びつけることで、現地通貨ベースの期初目標であるプラス6%～7%（北米）の成長を達成する考えです。
- 業績に関する説明は以上です。

第1四半期トピックス

- 最後に、第1四半期のその他のトピックスについてご説明いたします。

トピックス① 取締役会評価の実施と結果について（2016年6月28日公表）

■ 取締役会の構成や委員会運営、社外取締役に対する支援体制等、実行性が確保されており、総じて高評価

昨年同様に高評価の項目

- ・ 指名、報酬、コンプライアンスの各委員会の運営・役割について
- ・ 社外取締役に対する支援体制について
- ・ 監査役の役割について

昨年から改善した項目

- ・ 取締役会の運営状況について
 - ✓ オープンで活発な議論、中長期の経営課題に対する議論の充実に取り組み、評価が改善
 - ・ 投資家・株主との関係について
 - ✓ 体系的かつ全体感を伴った形でのフィードバックを定期的に実施する体制を整えたこと（四半期毎に報告）により、評価が改善
- ※ 取締役会の機能の発揮について
- ✓ 今年度から設問を追加し、アンケートの内容自体も改善

- 1点目は取締役会評価の実施と結果についてです。
- 当社は昨年に引き続き、取締役会評価の結果をこの6月に公表しました。
- 取締役会の構成や委員会運営、社外取締役に対する支援体制などについて、昨年に引き続き高評価となりました。
- さらに、取締役会の運営状況や投資家・株主との関係など、昨年の評価が低かった項目についても、中期経営計画の策定など、この1年間の取締役会での議論を通じて大きく改善されました。取締役会の実効性が一段と高まったものと認識しております。
- 今後も、実効性のあるコーポレートガバナンス体制の継続に向けて、取り組んでいく考えです。

トピックス② IFRS任意適用について (2016年6月17日適時開示)

■ 2018年3月期決算から、従来の日本基準に替えて任意適用

● IFRSへの移行に伴う開示スケジュール

2017年3月期	2017年4月	決算短信 (2018年3月期見通しをIFRS基準で開示予定) 連結計算書類	日本基準
	2017年6月	有価証券報告書	
2018年3月期 第1四半期	2017年7月	決算短信	IFRS
		四半期報告書	

● IFRS適用後の16CSP最終年度の目標水準

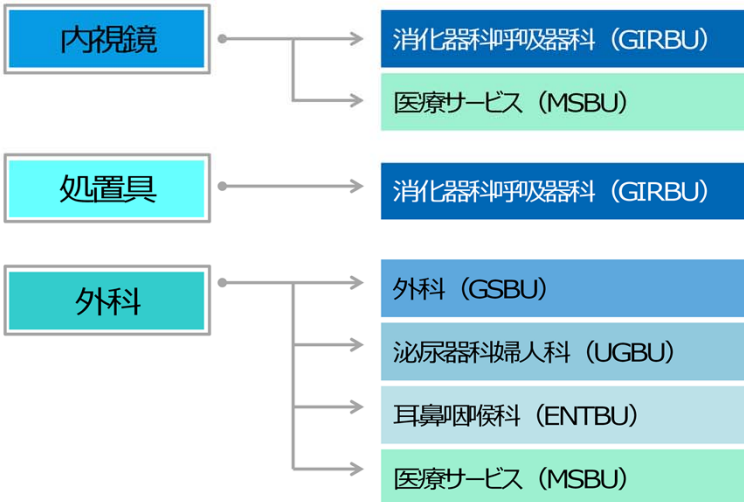
(単位: 億円)	2021年3月期 (日本基準)	2021年3月期 (IFRS)	増減
売上高	11,000	11,000	-
営業利益	1,700	1,800	+100
当期純利益	1,100	1,200	+100

- 2点目はIFRSの任意適用です。
- 当社は、資本市場における財務情報の比較可能性の向上および、経営管理の精度向上とガバナンスの強化を目的として、2018年3月期から国際会計基準（IFRS）を任意適用する予定としています。この第1四半期に外部公表をさせていただきました。
- なお、IFRS適用による16CSPの数値変更はこちらの通りです。

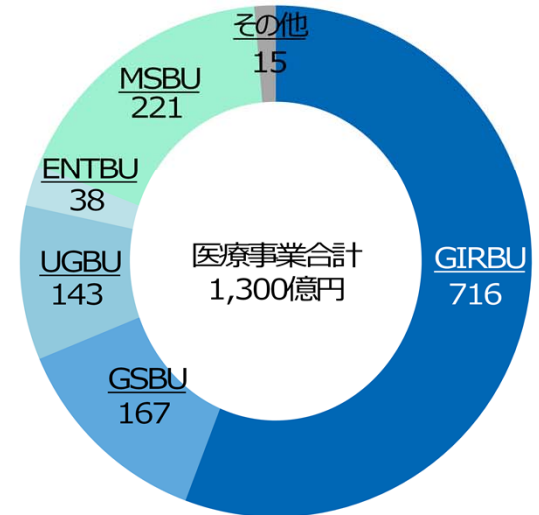
トピックス③ 医療事業ユニット (BU) 別売上高開示 (参考数値) について

- 参考値としてBU別売上高を2017年3月期第1四半期より決算参考資料で開示

【組替後イメージ】



【2017年3月期 第1四半期売上高】 (単位: 億円)



- 最後は、医療事業のBU別売上高の開示です。
- この第1四半期から16CSPの戦略に沿って、医療事業のBU別売上高を参考数値として開示しております。
- 16CSP初年度となる今期は、円高の進行等、急激な外部環境変化により、大変厳しいスタートとなりました。しかしながら、経営陣一丸となり、これらBU別の各事業戦略を遂行し、最終年度である2021年3月期の経営目標達成に向け、しっかりと舵取りをしてまいりたいと思います。
- 引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
- 私からの説明は以上です。
- ご清聴ありがとうございました。

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

參考資料

【参考資料】 2017年3月期 セグメント別業績見通し (通期)

(単位：億円)		2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (前回見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	前期比	為替影響調整後
医療	売上高	6,089	6,100	5,980	▲120	▲2%	+8%
	営業利益	1,402	1,270	1,200	▲70	▲14%	+5%
科学	売上高	1,016	1,000	960	▲40	▲6%	+4%
	営業利益	85	60	40	▲20	▲53%	▲2%
映像	売上高	783	700	620	▲80	▲21%	▲15%
	営業利益	▲21	0	▲40	▲40	—	—
その他 (新事業)	売上高	158	200	190	▲10	+21%	+23%
	営業利益	▲58	▲60	▲60	—	—	—
全社・消去	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲364	▲370	▲370	—	—	—
合計	売上高	8,046	8,000	7,750	▲250	▲4%	+5%
	営業利益	1,045	900	770	▲130	▲26%	+2%

【参考資料】 2017年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)	2016年3月期（実績）		2017年3月期（見通し）		前年同期比（%）		2017年3月期（前回見通し）	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	3,958	4,088	3,660	4,090	▲8%	+0%	3,800	4,200
営業利益 (営業利益率)	501 (12.7%)	544 (13.3%)	290 (7.9%)	480 (11.7%)	▲42%	▲12%	370 (9.7%)	530 (12.6%)
営業外収支	▲66	▲70	▲40	▲60	-	-	▲50	▲50
経常利益 (経常利益率)	435 (11.0%)	474 (11.3%)	250 (6.8%)	420 (10.3%)	▲43%	▲11%	320 (8.4%)	480 (11.4%)
当期純利益 (当期純利益率)	358 (9.0%)	268 (6.6%)	200 (5.5%)	370 (9.0%)	▲44%	+38%	270 (7.1%)	380 (9.1%)

【参考資料】 2017年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)		2016年3月期 (実績)		2017年3月期 (見通し)		前年同期比 (%)		2017年3月期 (前回見通し)	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,979	3,110	2,830	3,150	▲5%	1%	2,920	3,180
	営業利益	679	723	520	680	▲23%	▲6%	590	680
科学	売上高	485	531	440	520	▲9%	▲2%	470	530
	営業利益	33	52	0	40	-	▲22%	10	50
映像	売上高	415	368	300	320	▲28%	▲13%	320	380
	営業利益	0	▲21	▲20	▲20	-	-	▲20	20
その他 (新事業)	売上高	79	79	90	100	+14%	+27%	90	110
	営業利益	▲33	▲26	▲30	▲30	-	-	▲30	▲30
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲179	▲185	▲180	▲190	-	-	▲180	▲190
連結合計	売上高	3,958	4,088	3,660	4,090	▲8%	+0%	3,800	4,200
	営業利益	501	544	290	480	▲42%	▲12%	370	530